

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市 町 名	大田原市
事 業 名	那須与一の郷・高館地域活性化推進事業
事業主体の名称	那須の郷高館活性化ネットワーク
代表者の名称	高崎 眞美
事業主体の所在	〒324-0206 大田原市中野内1226-2
事業主体の概要	団体の目的:市内北部の両郷周辺地域の活性化 設立年月日:平成25年4月1日 構成員等: 地区住民約50人(有機的、かつ総合的に活動しているメンバーがその中心的役割を担う)
当該事業に係る地域の現状と課題	両郷地区は、市内でも高齢化・過疎化が進んだ地区であるが、里山の豊かな自然に囲まれ、県内でも有数の農畜産物を産出する肥沃な穀倉地帯や那須与一宗隆公が居城したと伝えられる高館城址「黒羽藩」があるほか、郷土芸能(獅子舞、ささら、神楽、雅楽、太鼓)が盛んであった地区である。そのため、これらを活用して地域活性化を図るべく、平成20年から「那須の郷 高館まつり」を7回開催し地域の住民がお互いに文化芸術を情報発信するなど、自主的なつながりが生まれつつある。 しかし、地域を大切に思い地域を支える人材、特に次世代を担う人材が減少していることから、いかにして人材を確保・育成し、外から人を呼び込んでいくかが課題となっている。
事業目的	里山の自然や地域産業・農産物を生かしながら、郷土芸能・伝統行事を継承することにより、地区の子どもの郷土愛を醸成し、地域住民同士の交流を促進するとともに、地区外の人(特に若者)に興味をもってもらうことで、交流のきっかけ、ひいては移住のきっかけをつくることをねらう。
事業概要	【平成30年度】(下線は平成30年度からの取組) ①両郷地区に残る文化財及び祭事の研究、保存 ・獅子舞、ささら、神楽、雅楽等の郷土芸能や民間伝承等の調査・研究・記録 ②地域の魅力の発信と地域の担い手の育成 ・高館まつりを開催した(開催時期・場所: 11月11日(日)・大田原市芸術文化研究所) 郷土芸能の披露、よさこい、芸術文化研究所作品展、彫刻制作等 ・両郷米、農畜産物のPRのため、各種イベントに試食してもらおうブースを出展 ・小学生による「農民道全一太鼓」の演奏等への協力 ・ホームページにて、両郷地区の魅力を伝えた。 ・那須野が原国際芸術シンポジウム招聘作家との交流、高館まつりでの作品展示 ③大田原市の地域資源である「那珂川」を活用したイベントの開催 ・鮎釣り大会を開催した(9月2日 那珂川河川公園) ④周辺環境整備(高館城跡、地区内のヤマザクラ) 【平成31年度以降】 ・前年度の事業の評価を踏まえて、上記①～④を継続し、地域の魅力を一層高める。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり) 【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①両郷地区に残る文化財及び祭事の研究、保存 ②地域の魅力の発信と地域の担い手の育成	①両郷地区に残る文化財及び祭事の研究、保存 ②高館まつり ③鮎釣り大会 ④地域内の環境整備	①両郷地区に残る文化財及び祭事の研究、保存 ②高館まつり ③鮎釣り大会 ④地域内の環境整備		①両郷地区に残る文化財及び祭事の研究、保存 ②高館まつり ③鮎釣り大会 ④地域内の環境整備
事業費	4,436,289	4,532,000	4,031,940	13,000,229	2,000,000
市町支出金(ソフト事業分)	2,000,000	2,000,000	2,000,000	6,000,000	1,000,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	2,436,289	2,532,000	2,031,940	7,000,229	1,000,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohatawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	那須与一の郷・高館地域活性化推進事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
大田原市補助金	2,000,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
地域協賛	1,503,000	高館まつり・鮎釣り大会 企業・団体・個人協賛金
祝金	153,000	高館まつり招待者祝金
参加者負担金	214,000	鮎釣り大会参加者負担金
売上	101,140	高館まつり時売上
雑入	1	
繰越金	60,799	
計	4,031,940	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	600,000	66,010	33,005	533,990	出演者謝礼
旅費	0	0	0	0	
交際費	33,000	0	0	33,000	他団体祝金
消耗品費	855,185	64,102	32,051	791,083	事務用品、鮎釣り大会景品、高館まつり材料
食糧費	427,919	0	0	427,919	飲料、昼食、食材費
印刷製本費	651,282	608,236	304,118	43,046	チラシ(18,800枚)・ポスター(250枚)印刷、写真現像
通信運搬費	70,512	70,512	35,256	0	切手、ハガキ
保険料	29,040	29,040	14,520	0	傷害保険、賠償責任保険
委託料	792,600	792,600	396,300	0	警備業務、HP管理、シャトルバス運行
使用料及び賃借料	369,500	369,500	184,750	0	舞台賃借、備品賃借
繰越金	202,902	0	0	202,902	
計	4,031,940	2,000,000	1,000,000	2,031,940	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	城下町くろばね 地域活性化事業
事業主体の名称	黒羽・那珂川 あゆめの会
代表者の名称	鈴木 玲子
事業主体の所在	〒324-0241 大田原市黒羽向町55 株式会社商美社内
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的:江戸の城下町として栄えた黒羽は、芭蕉の里でもあり、那珂川の舟運は様々な富と文化をもたらしてくれ、今なおその佇まいが随所に残る。その財産を地域住民が再認識することにより、地域社会の活性化・地域おこしに寄与することを目的とする。</li> <li>・設立年月日:平成26年3月15日</li> <li>・構成員等:元気な那珂川の鮎女(あゆめ)そしてしっかり歩めをモットーに、黒羽地区の女性で組織する。(会員9名)</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>本会は、平成25年度の「大田原市街かど美術館」の会場となった「猪股邸」での美術展の評判を受けて、継続して古今の地元作家による芸術作品を多くの人々が鑑賞できる機会となる美術展を開催するために結成された。平成26年度から「城下町くろばね展」と題して開催した結果、地域の街並み・建物・作品の素晴らしさを再認識したとの声が多く聞かれ、一定の成果はあった。しかし、この地域に居住する若い世代が、いかんして地域資源を活用し、地域活性化に携わろうとする機運を高め、地域から転出する人を抑制できるかが課題となっている。</p>
事業目的	<p>築100年という地域の伝統ある日本家屋において、地域住民が若い世代を巻き込んだイベントや講座等を開催することにより、若者をはじめとした地域内外の人々を呼び込み、黒羽地域に残る歴史・文化・自然の良さを知ってもらうことにより、地域の魅力を再発見したり、地域に関心をもつきっかけをつくることと、住民等の相互交流を深め、地域に愛着をもってもらうことで、住み続けたいという思いを深めてもらうことを目的とする。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】(下線は平成30年度からの取組) 《地域住民自身による地域資源の魅力発見・発信》 ①城下町くろばね展を開催(開催時期:5月19日～27日(9日間) 開催場所:日本家屋 猪股邸)期間中來場者約1,000名  <ul style="list-style-type: none"> <li>・版画、書、油絵、染色、木工、竹芸、陶芸、七宝焼 陶人形等、黒羽在住作家の作品展示</li> <li>・勝海舟畫 等、黒羽(黒羽藩)ゆかりの人物に関する特別展示</li> <li>・弦楽四重奏、サクセフォン演奏、茶室、庭園の散策</li> </ul>                 ②くろばね再発見講座の開催  <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康料理教室(9/19 黒羽川西地区公民館)、○藍染め体験(10/8 紺屋染物店)、</li> <li>○七宝焼体験(10/24 商美社)、○正月飾り製作(11/28 黒羽川西地区公民館)</li> </ul>                 【平成31年度以降】                  前年度の実施結果を評価分析し、継続して実施する。             </p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」                  (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互惠のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進)                  【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】                  【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり)                  【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①城下町くろばね展 ②黒羽再発見講座の開催 ③高校生との交流事業	①城下町くろばね展 ②黒羽再発見講座の開催 ③蔵めぐりパンフレット作成	①城下町くろばね展 ②黒羽再発見講座の開催		①城下町くろばね展 ②黒羽再発見講座の開催
事業費	2,395,298	2,385,311	2,342,666	7,123,275	1,500,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,000,000	2,000,000	2,000,000	6,000,000	1,000,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	395,298	385,311	342,666	1,123,275	500,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
連絡先 FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohatawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	城下町くろばね 地域活性化事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	2,000,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
会費	180,000	会費(@20,000×9人)
講座参加負担金	0	
手数料	35,375	作品販売手数料
繰越金	42,287	
雑入	85,004	祝金、預金利子
計	2,342,666	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	728,000	728,000	364,000	0	作品出展者謝礼、演者謝礼
交際費	13,000	0	0	13,000	地域活性化センター会費、お見舞金
消耗品費	174,266	94,266	47,133	80,000	記念品、作品展示用品、事務用品
燃料費	34,000	0	0	34,000	ガソリン代
印刷製本費	371,076	371,076	185,538	0	展覧チラシ(13,000枚)・ポスター(200枚)、講座チラシ(5,500枚)
食糧費	98,354	30,796	15,398	67,558	演奏者贈、オープニング呈茶
修繕料	43,000	43,000	21,500	0	展示会場ガラス、雨戸建具修繕
通信運搬費	25,200	25,200	12,600	0	案内状送付、作品搬出入
手数料	972	972	486	0	振込手数料
保険料	0	0	0	0	
委託料	481,690	481,690	240,845	0	展覧会場清掃等、チラシ折込、茶席運営
使用料及び賃借料	345,000	225,000	112,500	120,000	展覧会場・駐車場賃借、事務所賃借
備品購入費	0	0	0	0	
繰越金	28,108	0	0	28,108	
計	2,342,666	2,000,000	1,000,000	342,666	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単事業調書)  
【単事業】

市町名	大田原市
事業名	地域資源を活かした金丸地域の活性化事業
事業主体の名称	金丸地区活性化協議会
代表者の名称	新江 章平
事業主体の所在	〒324-0041 栃木県大田原市本町1-3-3 総合文化会館2F(大田原ツーリズム内)
事業主体の概要	・団体の目的: 地域の住民、大学生、団体などを巻き込みながら、金丸地区内の自然や文化資源を活かしたイベントやボランティア活動を通して、観光地化し、交流人口を増やすとともに、地域活性化を図ることを目的とする。 ・設立年月日: 平成26年4月1日 ・構成員等: 金丸地区を中心とする住民や団体、学生等のボランティア
当該事業に係る地域の現状と課題	本協議会は、歴史や自然、文化的な地域資源があるにもかかわらず、地区の住民でさえそのことを知らない状況があったため、平成26年に国重要文化財である那須神社でジャズライブを開催するなどして、地域資源の価値を再認識してもらった活動を行ってきた。これにより、地域の価値を見いだす住民が徐々に増えてきているが、まだまだ地域資源の価値の認知度が低く、また、それぞれが連携して取り組む活動がない状況にある。今後、どのようにすれば住民同士が相互に協力し、連携しあうことができるか検討していく必要がある。
事業目的	【新たな人の流れの創出と地域づくりのリーダーの育成】 地区の住民自身が、地域の歴史、自然、文化の価値に気づき、積極的にイベントやガイド養成等の多様な仕掛け、継続的に地域資源の情報発信に取り組むことにより、交流人口の増加を図るとともに、地域づくりの担い手を発掘、育成することを目的とする。
事業概要	【平成30年度】 (1)認知度や集客を高めるためのイベントに向けての事業を実施した。 ①菊花祭&音楽祭in那須神社2018(期間中來場者600人) 菊花祭 11月5日～11月11日、音楽祭・キャンドルライト・大田原グルメ祭り 11月11日 ②那須神社 永代々神楽・太々神楽(3月11日 那須神社 來場者約200人) ③地域清掃奉仕活動(7月25日 那須神社周辺 参加生徒数76人) 地元住民と中学生による那須神社周辺の環境整備作業 (2)来客者への満足度を高めるための観光地化への事業を実施した。 ①生き物調査体験(8月26日 相の川沿いの水路) ②金丸地区ボランティア案内スタッフガイド養成事業 地元小学校でのワークショップにより子どもたちがまとめた情報を使用し、道の駅を中心として金丸地域の地域ガイドボランティア養成のため、月1回ペースで金丸地区の歴史文化について勉強会を行った。 【平成31年度以降】 前年度の事業の反省点を踏まえて、継続的に実施する。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり) 【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①菊花祭&音楽祭りの開催 ②菊の栽培事業 ③地域清掃奉仕活動 ④イベントに向けて会場周辺整備 ⑤ワークショップ ⑥地域ガイド事業 ⑦案内板・看板・ポスター・販促ツール作成 ⑧地域資源を活かした交流人口を増やすための事業	①菊花祭&音楽祭りの開催 ②新たな文化を創出するための事業 ③イベントに向けてのボランティア整備 ④イベントに向けて会場周辺整備 ⑤ワークショップ ⑥地域ガイド事業 ⑦案内板・看板・ポスター・販促ツール作成 ⑧地域資源を活かした交流人口を増やすための事業	①イベントの開催 ②新たな文化を創出するための事業 ③イベントに向けてのボランティア整備 ④イベントに向けて会場周辺整備 ⑤ワークショップ ⑥地域ガイド事業 ⑦案内板・看板・ポスター・販促ツール作成 ⑧地域資源を活かした交流人口を増やすための事業		①イベントの継続的実施 ②地域スタッフ・ガイド運営 ③地域資源を活かした観光事業
事業費	2,110,607	1,621,289	2,181,348	5,913,244	1,200,000
市町支出金(ソフト事業分)	2,000,000	1,500,000	2,000,000	5,500,000	1,000,000
うち県交付金	1,000,000	750,000	1,000,000	2,750,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	110,607	121,289	181,348	413,244	200,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohatawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	地域資源を活かした金丸地域の活性化事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	2,000,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
イベント販売売上	167,700	菊花祭時食品販売(やきそば、豚汁)
前年度繰越金	13,640	
雑収入	8	預金利息
計	2,181,348	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	224,026	224,000	112,000	26	菊借用謝礼、出演者謝礼
消耗品費	268,102	233,000	116,500	35,102	イベント時装飾用消耗品、清掃用具、事務用品
食糧費	46,738	0	0	46,738	弁当、飲み物
印刷製本費	313,400	313,000	156,500	400	チラシ(5,000枚)・ポスター(50枚)印刷
広告費	0	0	0	0	
委託料	1,064,800	1,061,000	530,500	3,800	バス輸送、イベント時誘導員、イベント会場整備
使用料及び賃借料	258,560	168,000	84,000	90,560	イベント音響機器等
備品購入費	0	0	0	0	
手数料	1,404	1,000	500	404	振込手数料
繰越金	4,318	0	0	4,318	
計	2,181,348	2,000,000	1,000,000	181,348	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	大田原市黒羽食文化普及推進事業
事業主体の名称	黒羽ながら会
代表者の名称	清矢 彰
事業主体の所在	〒324-0234 大田原市前田928-1
事業主体の概要	<p>・団体の目的:大田原市黒羽の優れた地域資源や特産品を使用し、黒羽ご当地グルメを確立することにより、大田原市の魅力を高め、地域経済の活性化を図るとともに、昔ながらの食文化を大切に、時代にあった商品開発の意欲を高め、清流からの恵みとその清流を未来に引き継ぐ活動を展開する。</p> <p>・設立年月日:平成23年2月10日</p> <p>・構成員等:大田原商工会議所、黒羽商工会及び大田原市観光協会の会員</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	大田原市黒羽の「自然」「歴史」「文化」「食」関連の観光地や商品が既にあるが、市内外での認知度が低く、それらを活用した観光誘客や売上増加につながっていない。これまでに鮎を材料にした商品開発を行い各種イベントに出店し、PRをしてきた。その結果、地域住民・関係者を広く巻き込み、自らが地域の魅力に気づき、「自分ごと」としていくことや地域の魅力を積極的に発信し、地域を盛り上げていく人材を増やしていくことが重要であることが分かった。今後は、地域住民・関係者の一体感をいかに醸成していくかが課題である。
事業目的	生産者、加工業者、販売者等の各関係者が、「ご当地グルメ」の商品開発、販路拡大、PRを一体的に取り組むことにより、地域に関わる人同士の信頼関係を高め、先頭に立って地域を盛り上げる人材を育成するとともに、地域の魅力を自らの言葉で発信することで、市内外からの観光客を増加させ、地域住民・関係者、地域経済の好循環を図る。
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>①地域資源や特産品を活用し、時代に合ったご当地グルメの開発を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な商品開発とイベント出店</li> <li>・これまで「鮎」を開発してきた地域の特産品「鮎」を使った商品の改良</li> <li>・子どもが好む「鮎」を使った商品の開発(子どもの川魚離れ解消のため)</li> <li>・これまで食材として利用されず廃棄されてきた「鮎」を使った商品の開発</li> <li>※以上を、手に取ってもらえるようパッケージデザイン、ネーミング、一目でわかるようなシールを貼るなど工夫した。</li> </ul> <p>②自主イベントを開催し、ご当地グルメをPRした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鮎まつり(6月3日 道の駅那須与一の郷)、なか川うまいもんまつり(11月11日 道の駅那須与一の郷)の開催</li> </ul> <p>③各種イベント等での試食、販売等による販路の拡大を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ご当地キャラクター大集合(4月29日 道の駅那須与一の郷)、くろばね紫陽花まつり(6月16日～7月8日 黒羽城址公園)、道の駅那須与一の郷夏まつり(8月26日 道の駅那須与一の郷)、ご当地キャラクタースポーツ大会(10月7日 県北体育館)、天狗王国まつり(10月28日 なかがわ水遊園)</li> </ul> <p>④道の駅那須与一の郷敬老の日セールおよび地元敬老会にて鮎の塩焼きを提供した(9月16日)</p> <p>上記②の鮎まつり、③の道の駅那須与一の郷夏まつりにおいては、子どもを対象とした無料の「鮎つかみ取り」を実施し、取った鮎をその場で焼いて食させることで、那珂川の自然、命の大切さを伝える機会を作った。</p> <p>【平成31年度以降】</p> <p>①～③の取組を評価・検討をした上で事業を実施する。④敬老会や学校行事に出向き、清流の恵みとその清流を未来に引き継ぐ活動を展開する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」(幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛」にある共同互恵のまちづくり) 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進</p> <p>【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】</p> <p>【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり)</p> <p>【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①ご当地グルメの開発・改良 ②ご当地グルメのPR ③イベント出店	①ご当地グルメの開発・改良 ②ご当地グルメのPR ③イベント出店 ④地域行事への参加	①ご当地グルメの開発・改良 ②ご当地グルメのPR ③イベント出店 ④地域行事への参加		①ご当地グルメの開発・改良 ②ご当地グルメのPR ③イベント出店 ④地域行事への参加
事業費	1,545,975	962,269	1,018,000	3,526,244	900,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	700,000	700,000	2,400,000	700,000
うち県交付金	500,000	350,000	350,000	1,200,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	545,975	262,269	318,000	1,126,244	200,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohawara.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	大田原市黒羽食文化普及推進事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部

(単位:円)

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	700,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
販売収入	318,000	イベント出店時売上
計	1,018,000	

2 支出の部

(単位:円)

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
消耗品費	897,093	700,000	350,000	197,093	加工用鮎、その他食材、調味料、包装用品
燃料費	28,526	0	0	28,526	プロパンガス
広告費	0	0	0	0	
使用料及び賃借料	69,594	0	0	69,594	小間出店料
備品購入費	0	0	0	0	
手数料	7,400	0		7,400	営業許可申請手数料
繰越金	15,387	0	0	15,387	
				0	
計	1,018,000	700,000	350,000	318,000	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合



栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	地域資源“大田原の星空”を活用した観光宣伝事業
事業主体の名称	大田原市星旅祭実行委員会
代表者の名称	八木沢 政和
事業主体の所在	〒324-0041 栃木県大田原市本町1丁目2805番地3 大田原地域職業訓練センター内
事業主体の概要	団体の目的:環境省が認める「日本一の星空」に4度選ばれた大田原市の地域資源の一つである星空を活用し、都会から人を呼び込み賑わいを創出するとともに、大田原市民の方々に大田原市の景観の素晴らしさを改めて再発見してもらうことを目的とする。 設立年月日:平成28年4月25日 構成員等:地域おこし協力隊、天文関係者、観光関係者、地元商工業者、NPO、学生等
当該事業に係る地域の現状と課題	大田原市では何年も前から人口減少・少子高齢化が問題となっているが、人を呼び込む策を見つけれずにいた。しかし、実は大田原市には、環境省が認める「日本一の星空」に過去4度も輝くなど、日本有数の星空観賞に適した場所という貴重な地域資源がある。市民にとっては星がきれいに見える空は当たり前であるため、星空が人を呼び込める大きな地域資源であるという認識を持っていなかった。
事業目的	・市外・県外の人到大田原市を訪れるきっかけをつくる。 ・「星空が綺麗なまち大田原」として大田原市の知名度を向上させる。 ・市民自身に地域の魅力を認識してもらう。 ・来場者到大田原市の魅力を知ってもらい、移住定住を促す。
事業概要	【平成30年度】《大田原市を訪れるきっかけ》 ①大田原市の星空の素晴らしさをPRするイベントを開催した 「星旅祭2018inおおたわら」の開催 開催時期・場所:10月13日(土)、ふれあいの丘 星好き・旅好き・音楽好きが一堂に集まる野外FESTIVAL『星旅祭』～旅ゆけ 星空と音楽と出会う場所～ 来場者 504名(未就学児除く) 参加者 650名(来場者、出演者、スタッフ等)  【平成31年度】 会場を市内中心部の屋内に移し、子どもを対象とした星空に関する体験型イベント・ワークショップ等を開催し、『大田原の綺麗な星空』の知名度向上を図るとともに、2020年度に計画する「はやぶさ2」帰還に絡めたイベントへつなげる取り組みを行う。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり) 【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①星旅祭2016開催 ②ミニイベント開催 ③首都圏との交流事業	①星旅祭2017開催 ②ミニイベントの開催 ③首都圏との交流事業 ④大田原グルメの企画、開発	①星旅祭2018開催 ②首都圏との交流事業 ③大田原グルメの企画、開発		①星旅祭2019開催 ②首都圏との交流事業 ③大田原グルメの企画、開発
事業費	4,490,717	5,249,903	4,235,873	13,976,493	600,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,000,000	2,000,000	2,000,000	6,000,000	0
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	2,490,717	3,249,903	2,235,873	7,976,493	600,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	地域資源“大田原の星空”を活用した観光宣伝事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	2,000,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
売上金	1,228,740	星旅祭 チケット販売収入1,036,500円、団体出店料119,150千円、その他物販73,090円
前年度繰越金	557,118	
協賛金	440,000	協賛企業35社
雑入	10,015	預金利息、お祝い金等
計	4,235,873	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市	町		
報償費	370,000	0	0	370,000	出演者謝礼
消耗品費	294,275	157,000	78,500	137,275	イベント関連材料
食糧費	165,016	0	0	165,016	イベント従事者弁当
印刷製本費	103,508	103,000	51,500	508	チラシ(20,000枚)ポスター(2,000枚)印刷、チケット作成
通信運搬費	18,757	4,000	2,000	14,757	チラシ・ポスター郵送費
広告費	0	0	0	0	
手数料	34,328	0	0	34,328	振込手数料、チケット販売手数料
保険料	2,200	2,000	1,000	200	運営スタッフ保険、損害賠償責任保険
委託料	2,389,548	1,502,000	751,000	887,548	会場設営、警備、バス送迎、HP更新業務
使用料及び賃借料	269,615	232,000	116,000	37,615	会場使用料、楽曲使用料
繰越金	588,626	0	0	588,626	
計	4,235,873	2,000,000	1,000,000	2,235,873	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	あかがしの森保全および地域利用推進事業
事業主体の名称	大豆田あかがしの森保全会
代表者の名称	小林 真先
事業主体の所在	〒324-0242 大田原市大豆田142
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的:1113年前に創建された大豆田の湯泉神社にある栃木県指定天然記念物「湯泉神社社叢」(樹齢600年)を後生に残すための保全活動や地域活性化事業を実施する。</li> <li>・設立年月日:平成28年5月22日</li> <li>・構成員等:事業の目的に賛同する大豆田地区の住民で構成する。(10名)</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	湯泉神社のアカガシは、地域の誇りであり、市内外からカメラ愛好家等が訪れる名所となっている。しかし近年、その樹勢に衰えが見られ、枯死する可能性が樹木医から指摘されており、地域の交流の拠点が失われつつある。この貴重なアカガシの森を後世へとつなげるため、専門家の協力を得ながら地域活動で保全や地域活性を図る必要がある。
事業目的	地域の心の寄り所となっているアカガシの樹勢を回復させ、イベントを開催して地域住民同士、市外からの観光客との交流の場を設けることにより、新しい人の流れをつくるとともに、地域の一体感の醸成を高め、地域に誇りをもつ人を増やし、地域づくりの人材を育成することをめざす。
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>①住民によるアカガシの森の管理・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・樹木医指導の下、地域住民で軽剪定、倒木処理、落葉掻きなどによる管理・保全を行った。</li> <li>・あかがしの森の草刈りなどの整備を定期的に実施し、地域の世代間交流の場の確保に取り組んだ。</li> </ul> <p>②地域交流イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鮎のつかみ取りと串焼き体験(8月12日参加者35人)、例大祭に合わせた島均三講演会(10月7日参加者50人)、餅つき大会(12月9日参加者60人)を開催した。</li> </ul> <p>【平成31年度】</p> <p>交付金に頼らず、単独事業での運営等を実施する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標①】時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する          (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進)</p> <p>【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績:104人】</p> <p>【目標②】大田原市への新しい人の流れをつくる(文化・芸術・スポーツを活用したまちづくりの推進)</p> <p>【KPI②】文化芸術イベントの来場者数 H26:4,790人→H32:5,000人【H28実績:4,835人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①アカガシの森の管理 ②あかがしの森の地域活動による保全 ③地域交流イベントの開催	①あかがしの森の管理 ②あかがしの森の地域活動による保全 ③地域交流イベントの開催 ④地域交流の場としての活用	①あかがしの森の管理 ②あかがしの森の地域活動による保全 ③地域交流イベントの開催 ④地域交流の場としての活用 ⑤学校教育等での活用		①あかがしの森の地域活動による保全 ②地域交流イベントの開催 ③地域交流の場としての活用
事業費	1,102,039	1,002,554	763,002	2,867,595	300,000
市町支出金(ソフト事業分)	1,100,000	1,000,000	750,000	2,850,000	270,000
うち県交付金	550,000	500,000	375,000	1,425,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	2,039	2,554	13,002	17,595	30,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
連絡先 FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	あかがしの森保全および地域利用推進事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	750,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
雑収入	13,002	預金利子、残金充当
計	763,002	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	279,000	279,000	139,500	0	講師謝金、協力者謝礼
消耗品費	103,133	91,000	45,500	12,133	イベント時材料、事務用品
燃料費	5,000	5,000	2,500	0	混合油
印刷製本費	40,000	40,000	20,000	0	ポスター20部、チラシ200部 作成
委託料	316,000	316,000	158,000	0	倒木処理、イベント会場整備
使用料及び賃借料	19,400	19,000	9,500	400	水道使用料、器具レンタル
繰越金	469	0	0	469	
				0	
				0	
				0	
計	763,002	750,000	375,000	13,002	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	おおたわら龍城せせらぎの舞実施事業
事業主体の名称	大田原龍城せせらぎの舞実行委員会
代表者の名称	五月女 昌巳
事業主体の所在	〒324-0063 大田原市町島341
事業主体の概要	・団体の目的: 伝統文化・芸能の周知と伝承及び友好関係都市との交流 ・設立年月日: 平成27年6月28日 ・構成員等: 関係自治会長、土地改良区維持管理委員会、駐在所、地元企業、那須赤十字病院等
当該事業に係る地域の現状と課題	大田原小学校の学区は、蛇尾川で東西に分断されているという地理的条件から地域住民の交流が希薄になっており、市外の観光客を受け入れる態勢が生まれにくい状況にある。そのため、地域の特性や資源を活用した新たな集客・交流事業を創出することで、地域住民の交流・連携を促進する必要がある。
事業目的	大田原神社・大田原城址公園を有し歴史的価値の高い本地域を会場とした伝統芸能と触れ合うイベントを開催することにより、観光誘客につなげるとともに、地域住民が自分たちの住む地域の価値を見直し、さらなる地域住民の一体感を醸成することを目的とする。
事業概要	【平成30年度】 ①おおたわら龍城「せせらぎの舞」を開催した。(来場者約200名) 日時: 10月21日 場所: 大田原神社境内特設ステージ 内容: 火入れ式、能楽体験、抹茶接待、能奉行、狂言 趣旨: 日本の伝統文化を通して地域の活性化を図る。大田原市ならではの体験型観光として、狂言や能など見てもらうだけではなく、体験できる新しい形で観光客の獲得を図る。 周知方法: 地域住民の一体感を醸成を図るため、より多くの地元住民の参加を促すとともに、市内各所にポスターを掲示し集客を図った。 【平成31年度】 前年度の事業の評価検討したうえで、以下のことを実施する。 ・県立5校(那須拓陽高校・那須清峰高校・那須高校・黒羽高校・那須養護学校)との連携
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり) 【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①おおたわら龍城「せせらぎの舞」の開催	①おおたわら龍城「せせらぎの舞」の開催	①おおたわら龍城「せせらぎの舞」の開催		①おおたわら龍城「せせらぎの舞」の開催 ②県立5校との連携
事業費	1,149,000	2,052,745	1,204,861	4,406,606	1,101,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	2,000,000	1,086,000	4,086,000	990,000
うち県交付金	500,000	1,000,000	543,000	2,043,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	149,000	52,745	118,861	320,606	111,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohatawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	おおたわら龍城せせらぎの舞実施事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	1,086,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
協賛金	115,000	10,000円×10件、5,000円×3件
雑収入	6	
繰越金	3,855	前年度繰越金
計	1,204,861	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市町支出額	県交付金		
報償費	650,000	650,000	325,000	0	出演者謝礼
旅費	48,820	48,820	24,410	0	出演者交通費
消耗品費	56,549	56,165	28,083	384	野点用菓子、浴衣等
食糧費	52,305	6,540	3,270	45,765	出演者弁当、従事者昼食、飲料
印刷製本費	69,992	69,992	34,996	0	チラシ8,100部、ポスター200部
光熱水費	909	909	454	0	松明用燃料
広告費	30,618	30,618	15,309	0	新聞折込
手数料	756	756	378	0	振込手数料
委託料	110,000	110,000	55,000	0	警備、照明、写真撮影等
使用料及び賃借料	110,000	110,000	55,000	0	音響、舞台、椅子、神社会館等
備品購入費	0	0	0	0	
保険料	2,200	2,200	1,100	0	傷害保険
繰越金	72,712	0	0	72,712	
計	1,204,861	1,086,000	543,000	118,861	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	フクローの郷地域活性化事業
事業主体の名称	フクローの郷を守る会
代表者の名称	五十嵐 清市
事業主体の所在	〒324-0206 大田原市中野内237
事業主体の概要	・団体の目的:人口減少や高齢化の進む地域において、世代間の交流をより密にし、更に住みやすい地域を作る。 ・設立年月日:平成27年4月15日 ・構成員等:大田原市両郷地区の中野内下地域に住み、活気ある地域づくりを目指す各世代の有志(30名)
当該事業に係る地域の現状と課題	現在、両郷地区から近隣市町に転出する住民の増加による人口減少、住民の高齢化により地域社会を維持することが年々困難になりつつある。一方で、地区内の空き家をリフォームし、移住してくる若い家族が現れ始めている。このように地域社会再生の糸口が見えつつあるが、古くから地区で生活している住民が自身の地域の良さを忘れている。今後、どのようにして住民自らが地域の良さに改めて気づき、その良さを共有していくかが課題となっている。
事業目的	住民相互の交流を促進し、地域の魅力を再認識させることにより、住民自らが地域社会の維持を担い、すでに居住している者、新たな移住者それぞれにとって、より住みやすい地域を協働して創りあげ、人が人を呼ぶ好循環を創りあげる。
事業概要	【平成30年度】 ・世代、地域間交流の促進(きっかけづくり→相互理解) ①収穫感謝祭の開催(12月9日 中野内集会場 参加者59人) 地元の住民と移住者家族が、そばの種まきから収穫・感謝祭までを近隣地区にも参加を呼びかけ、企画、実施した。 ②そば打ち体験の実施(8月4日 五峰の湯 参加者21人) 育成会と連携し、地区の小学生にそばの打ち方を教えることをきっかけにして、世代間交流を図った。 ・地域住民の意識改革の促進(きっかけづくり→理論的理解→人材発掘) ③地域づくり関連の講演会の開催(3月16日 大宮温泉神社社務所 参加者30人) 平成28年度から開催している地域づくり講演会(講師:宇都宮大学地域デザイン科学部教授)を引き続き開催し、これまでの地域づくりの取組を評価して いただくとともに、新たな視点での地域おこしの手法を学んだ。 【平成31年度以降】 ①~②を反省点等を踏まえて、継続的に実施する。 また、③に触発された人材を発掘し、新たな地域の担い手になることで、事業の自立を促進させる。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」(教育活動の充実) 【KPI②】若者意向調査での「大田原市に卒業後も住んでみたいと思う、いつかは住んでみたい」と思うと回答した人の割合 H26:25.1%→H32:30%【次期調査時まで把握不可】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①収穫感謝祭 ②育成会そば打ち体験 ③宇都宮大学 地域デザイン科学部の講演会	①収穫感謝祭 ②育成会そば打ち体験 ③講演会	①収穫感謝祭 ②育成会そば打ち体験 ③講演会		①収穫感謝祭 ②育成会そば打ち体験
事業費	419,851	323,319	278,977	1,022,147	50,000
市町支出金 (ソフト事業分)	400,000	250,000	220,000	870,000	0
うち県交付金	200,000	125,000	110,000	435,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	19,851	73,319	58,977	152,147	50,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakuuishin@city.ohawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	フクローの郷地域活性化事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	220,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
販売収入	4,590	そば粉販売
雑収入	6,000	収穫祭祝金、通帳利息
繰越金	48,387	前年度繰越金
計	278,977	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	100,000	100,000	50,000	0	そばうち講師謝礼、講演会講師謝礼
消耗品費	80,104	60,000	30,000	20,104	材料費、事務用品
印刷製本費	53,946	50,000	25,000	3,946	チラシ・ポスター印刷45部
手数料	25,550	0	0	25,550	そば挽き、そば刈取り
通信運搬費	574	0	0	574	切手
使用料及び賃借料	12,000	10,000	5,000	2,000	会場借上、そば畑地代
燃料費	6,000	0	0	6,000	ガス代
繰越金	803	0	0	803	
計	278,977	220,000	110,000	58,977	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合



栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	両郷地区伝統芸能継承事業
事業主体の名称	檀山松葉の会(だんざんまつばのかい)
代表者の名称	菊池 正美
事業主体の所在	〒324-0206 大田原市中野内182
事業主体の概要	・団体の目的:大田原市両郷地区に古来より伝わる伝統芸能(囃子、太々神楽など)を習得、継承する。 ・設立年月日:平成28年5月28日 ・構成員等:現在及び過去において、両郷地区の伝統芸能に携わった者の有志と事業の目的に賛同する者(18名)
当該事業に係る地域の現状と課題	大宮温泉神社へ奉納してきた檀山松葉流囃子、中野内太々神楽などは、地区で代々受け継がれてきた伝統芸能であるとともに、地域コミュニティの一体感を生み、地域の魅力を発信する、貴重な地域資源である。しかしながら、高齢化の進行や若者層の流出により、演者が減少したことで、保存・継承が困難になり、コミュニティ意識の希薄化が進み、地域内外との交流が減少している。地域の誇れる文化として、さらにアピールし、後継者の確保を図る必要がある。
事業目的	継承すべき演目・囃子の発掘・習得・発信し、伝統芸能に携わる人(演者等)、興味を持つ人(ファン)を増やしていくことにより、次世代の地域の担い手を育成するとともに、人が人を呼ぶことで、地域と交流する人口を増やす。
事業概要	【平成30年度】 ①伝統芸能の魅力に気づく(自分たちが気づく) ・演目の発掘、習得(発表会、地域行事での披露する前に毎週練習会を行った。) ・若い担い手の発掘、確保(定期的に小学生にお囃子を教えることで、保護者を巻き込んだ勧誘活動を行った。) ・他地域との交流(大田原市屋台まつりでのお囃子の披露を通した市内での地域間交流を実施した。) ②魅力を伝える(発表・披露の機会を設け、ファンを増やす) 「大宮温泉神社例大祭」(4/7~4/8参加者 各13名)、「大田原市屋台まつり」(4/21~4/22 大田原市中心市街地 参加者各11名)、「第23回那須地区郷土芸能フェスティバル」(9/2那須町余笹川ふれあい公園 参加者11名)、「高館まつり」(11/11 大田原市芸術文化研究所 参加者10名)、「太々神楽冬の舞」(12/31 大宮温泉神社 参加者15名)、「北栃木新春名刺交換会」(1/7 勝田屋記念会館 参加者9名) 【平成31年度以降】 前年度の事業実施の反省点を踏まえて、PDCAサイクルをまわし、①~③を実施する。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに地域と地域を連携する」(教育活動の充実) 【KPI②】若者意向調査での「大田原市に卒業後も住んでみたいと思う、いつかは住んでみたい」と思うと回答した人の割合 H28:25.1%→H32:30%【次期調査時まで把握不可能】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①担い手の確保、定期演奏、他地域との交流 ②デジタルデータ化 ③各種イベントでの芸能発表 ④楽器、衣装等のリニューアル	①担い手の確保、定期演奏、他地域との交流 ②デジタルデータ化 ③各種イベントでの芸能発表	①担い手の確保、定期演奏、他地域との交流 ②各種イベントでの芸能発表 ③楽器、衣装等修理		①担い手の確保、定期演奏、他地域との交流 ②各種イベントでの芸能発表
事業費	1,030,003	458,029	489,430	1,977,462	100,000
市町支出金(ソフト事業分)	1,000,000	400,000	430,000	1,830,000	0
うち県交付金	500,000	200,000	215,000	915,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	30,003	58,029	59,430	147,462	100,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohatawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	両郷地区伝統芸能継承事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	430,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
繰越金	38,429	
謝礼	20,000	出演謝礼
雑入	1,001	通帳利息等
計	489,430	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市支出額	県交付金		
報償費	0	0	0	0	
消耗品費	27,500	20,000	10,000	7,500	鼓笛、鼓バチ、ハンディライト
印刷製本費	180,900	170,000	85,000	10,900	チラシ200部 ポスター印刷1,000部
修繕料	100,000	100,000	50,000	0	附締太鼓修繕
使用料及び賃借料	20,000	20,000	10,000	0	会場使用料
備品購入費	124,956	120,000	60,000	4,956	音響備品
手数料	1,296	0	0	1,296	
繰越金	34,778	0	0	34,778	
				0	
計	489,430	430,000	215,000	59,430	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	花瓶山を主体とした地域活性化事業
事業主体の名称	花瓶山の会
代表者の名称	田代 義継
事業主体の所在	〒324-0211 大田原市須賀川2981
事業主体の概要	<p>・団体の目的：花瓶山という自慢できる場所を愛好家を通して多くの人にアピールし、地域の活性化を図ることを目的とする。</p> <p>・設立年月日：平成28年5月21日</p> <p>・構成員等：事業の目的に賛同する者(主に須賀川地区の住民で構成する。26名)</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	須賀川地区に存在する花瓶山は、国有林の中にあるため、地元の住民でも知らない者が多かったが、最近は県内はもとより、首都圏からのツアー客も増えており、休日ともなると100人近くの観光客が訪れている。人口の減少が続く、高齢化率が41%を超える須賀川地区にあって、この「花瓶山」を地域資源と捉え、今後いかにして保全し、後世に引き継いでいくか地域が一体となって考えていく必要がある。
事業目的	須賀川地区に住む住民自身が花瓶山を地域資源と捉え、一体となって保全し、継続的に情報発信に取り組むことにより、観光客を呼び込むことを目的とする。合わせて、活動を通して、世代間の交流を進め、地域の一体感を醸成し、地域に誇りをもつ住民を増やし、地域づくりの人材を育成することも目的とする。
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>①シーズン中に月2回程度の現地調査、パトロールを行った。</p> <p>・イワウチワの開花時期(4月)、カタクリ草の開花時期(5月)、新緑の時期(6月)、紅葉の時期(11月)</p> <p>②遊歩道の環境整備、道標の設置を行った。</p> <p>③新たな観光スポットづくり(休耕田を活用した花畑)</p> <p>④観光客用の簡易トイレ、簡易休憩所を設置した。</p> <p>⑤須賀川地区の既存のイベント(新茶まつり、そばまつり)で花瓶山の写真展示を行った。</p> <p>⑥「お花見ハイキング」を開催した。(4/13開催。54名参加)</p> <p>⑦地域交流の一環として、そばの栽培、収穫を行い交流を深めた。</p> <p>【平成31年度以降】</p> <p>上記①～⑤を行うほか、平成30年度の取組を評価検討し、新たなイベントを模索するとともに、地域で稼ぐ力を備えることや地域の価値を向上させることを検討する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進)</p> <p>【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】</p> <p>【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり)</p> <p>【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①花瓶山保全活動 ②遊歩道の環境整備 ③花畑づくり ④休憩所の設置 ⑤地域交流 ⑥新緑ハイキング	①花瓶山保全活動 ②遊歩道の環境整備 ③花畑づくり ④休憩所の設置 ⑤写真展 ⑥新緑ハイキング ⑦検証作業	①花瓶山保全活動 ②遊歩道の環境整備 ③花畑づくり ④休憩所の設置 ⑤写真展 ⑥新緑ハイキング ⑦独自イベント開催		①花瓶山保全活動 ②花畑づくり ③写真展 ④新緑ハイキング ⑤独自イベント開催
事業費	1,200,207	826,033	800,000	2,826,240	300,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,180,000	800,000	700,000	2,680,000	270,000
うち県交付金	590,000	400,000	350,000	1,340,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	20,207	26,033	100,000	146,240	30,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakuuishin@city.ohawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	花瓶山を主体とした地域活性化事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市交付金	800,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
会費	26,000	会費1,000円×26名
雑収入	33	預金利子、残金充当
計	826,033	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
消耗品費	216,793	191,000	95,500	25,793	桜苗(添木舎)、そば種
食糧費	0	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	0	
広告料	0	0	0	0	
手数料	4,000	4,000	2,000	0	汲取手数料
委託料	595,240	595,000	297,500	240	案内看板制作、ハイキング 送迎バス
使用料及び賃借料	10,000	10,000	5,000	0	駐車場地代
計	826,033	800,000	400,000	26,033	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	佐良土地区伝統継承事業
事業主体の名称	佐良土地区活性化協議会
代表者の名称	生田目 昭一
事業主体の所在	〒324-0404 大田原市佐良土681-2
事業主体の概要	団体の目的:佐良土地区住民の地元への愛着心を育て、安心で安全な地域づくりを行うとともに、佐良土地区の活性化を図ることを目的とする。 設立年月日:平成29年3月26日 構成員等:佐良土地区 241世帯(役員約30名)
当該事業に係る地域の現状と課題	佐良土地区は、光丸山の門前町として栄えたところで、通りは今も当時の町並みを残している。平成元年から平成4年に栃木県の補助事業を受け、各家の前に屋号を掲げる「佐良土門前町並屋号宿」づくりに取り組み、歴史と文化が息づく個性豊かなまちづくりを進めてきた。 近年、人口減少、自営業者の減、共働きの増加などにより、地域住民の世代間交流が希薄になってきていることから、地域の祭事を通じ、地域住民の交流、連携を促進する必要がある。
事業目的	佐良土地区に受け継がれてきた歴史・文化の象徴として、国選択無形民俗文化財である「大捻縄引き」があるが、人員、金銭面の負担を理由にしばしば休止し、平成18年に湯津上商工会が中心となって実施して以来途絶えている状況となっている。このような中、佐良土小学校の保護者がまとまって、佐良土区に復活の要望が提出された。地域住民の世代間交流が希薄になる中、大捻縄引きの復活を一つの契機と捉え、地域内交流を進め、100年後も『佐良土に住むことの誇り』という熱意のもと事業を展開していく。
事業概要	【平成30年度】 ①「大捻縄引き」の復活開催 日時:8月18日(土)、会場:佐良土多目的交流センター、付近国道で開催した。(来場者:約100名) 内容:稲わらを寄りあげてつくった大縄(直径50cm、長さ50m)を大勢の人達で引き合う勇壮な綱引き ②諏訪神社例大祭にあわせて行われる子供相撲への支援(参加者:30名) 日時:8月26日(日)、会場:諏訪神社境内 内容:大捻縄引きで使用した大縄を土俵として活用するとともに、参加者を増やす取組を行った。 ③十五夜、十三夜の行事(豊年棒)保存継承の支援 日時:子どもたちの豊年棒づくりに協力した。 ④地域の社会資源の融合・連携事業の検討を行った。 ⑤自然が織りなす田園風景の保全、活用推進の検討を行った。 【平成31年度以降】 上記①～⑤を実施するとともに、佐良土小学校との連携した生涯学習事業を行う。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに地域と地域を連携する」(教育活動の充実) 【KPI②】若者意向調査での「大田原市に卒業後も住んでみたいと思う、いつかは住んでみたい」と思うと回答した人の割合 H26:25.1%→H32:30%【次期調査時まで把握不可能】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①大捻縄引きの実施 ②子供相撲への支援 ③豊年棒への支援 ④、⑤佐良土小学校との事業検討	①大捻縄引きの実施 ②子供相撲への支援 ③豊年棒への支援 ④佐良土小学校と連携した生涯学習事業 ⑤ワークショップの実施	①大捻縄引きの実施 ②子供相撲への支援 ③豊年棒への支援 ④佐良土小学校と連携した生涯学習事業 ⑤ワークショップの実施		①大捻縄引きの実施 ②子供相撲への支援 ③豊年棒への支援 ④佐良土小学校と連携した生涯学習事業 ⑤ワークショップの実施
事業費	2,600,230	3,197,331	1,500,000	7,297,561	750,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,500,000	1,500,000	1,000,000	4,000,000	0
うち県交付金	750,000	750,000	500,000	2,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	1,100,230	1,697,331	500,000	3,297,561	750,000

市町担当情報	
担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	佐良土地区伝統継承事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
大田原市補助金	1,500,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
助成金	150,000	佐良土地区241世帯分
協賛金	1,067,000	企業協賛金
諸収入	40,007	祝金、通帳利息
繰越金	440,324	
計	3,197,331	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	122,720	20,000	10,000	102,720	謝礼
消耗品費	1,090,883	705,298	352,649	385,585	稲わら、やぐら資材、看板、法被、記念品、事務品
食糧費	192,094	0	0	192,094	飲料、昼食代
印刷製本費	367,200	367,200	183,600	0	チラシ10,000部・ポスター作成
通信運搬費	9,142	0	0	9,142	案内状郵送料
手数料	70,810	55,198	27,599	15,612	新聞折込
保険料	14,200	14,200	7,100	0	賠償責任保険
委託料	360,504	225,504	112,752	135,000	警備業務、電気設備設営、音響設備設営
使用料及び賃借料	51,040	37,000	18,500	14,040	仮設トイレ
備品購入費	153,559	75,600	37,800	77,959	プリンター、立て看板4基、横断幕1枚
繰越金	765,179	0	0	765,179	
計	3,197,331	1,500,000	750,000	1,697,331	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	地域の歴史的伝統の菊文化の復活と普及活動による金丸・大田原の活性化事業
事業主体の名称	金丸菊の会
代表者の名称	戸村 聖一
事業主体の所在	〒324-0041 栃木県大田原市本町1-3-3 (株式会社大田原ツーリズム内)
事業主体の概要	・団体の目的:金丸地区を中心とした地域で、歴史的に伝統文化である菊を地域の住民、学校、団体などと一緒復活させ、イベントやボランティア活動への提供や伝統文化を継承していくことで、地域活性化を図ることを目的とする。 ・設立年月日:平成28年4月1日(平成28年度は部会。正式な単独の会としてはH29年4月から) ・構成員等:金丸を中心とする住民や団体、学校等のボランティア
当該事業に係る地域の現状と課題	金丸地区には国指定重要文化財である那須神社があり、その神社と繋がりをもち伝統的に菊栽培と菊のお祭りが開催されてきた。しかし現在は菊栽培を行う農家も少なくなり、衰退してしまい、祭りでも地元の菊を見ることはなくなった。歴史的に物語があり、伝統もあるこの菊の復活を地域内でも望んでいる。そのため、いかにしてこの伝統文化を継承し、次世代に伝えていくかが課題となっている。
事業目的	衰退していた菊の栽培にもかかわらず、金丸地区活性化協議会によるお祭りの復活や地域活性の取組で、この菊部会が平成28年に立ちあがり、人数も20名を超える程に増え、一つの団体として活動しはじめた。今後の活動として、金丸地区だけでなくとどまらず広く大田原市全域への菊の普及を通して、伝統文化の継承と地域の活性化を行うことを目的とする。
事業概要	【平成30年度】 ①菊づくりの人材育成と菊栽培を行った 地域の人への勉強会や栽培指導 計9回実施 ②学校での菊栽培の指導を行った 金丸小5回、奥沢小3回、金田南中2回実施 ③イベントへの展示参加を行った。 ・大田原市産業文化祭菊花展(11月4日・5日) ・菊花祭&音楽祭in那須神社2018での展示(11/5~11/11)  【平成31年度以降】 前年度の事業の反省点を踏まえて、継続的に実施する。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(文化・芸術・スポーツを活用したまちづくりの推進) 【KPI②】文化芸術イベントの来場者数 H26:4,790人→H32:5,000人【H28実績:4,835人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①菊づくりの人材育成と菊栽培(勉強会や栽培指導) ②学校での菊栽培の指導 ③イベントでの展示参加 ④活動の推進や地域の情報を紹介するパンフレットの作成と配布	①菊づくりの人材育成と菊栽培(勉強会や栽培指導) ②学校での菊栽培の指導 ③イベントでの展示参加 ④活動の推進や地域の情報を紹介するパンフレットの作成と配布 ⑤先進地域事例の視察	①菊づくりの人材育成と菊栽培(勉強会や栽培指導) ②学校での菊栽培の指導 ③イベントでの展示参加 ④活動の推進や地域の情報を紹介するパンフレットの作成と配布 ⑤先進地域事例の視察		①菊づくりの人材育成と菊栽培(勉強会や栽培指導) ②学校での菊栽培の指導 ③イベントでの展示参加 ④活動の推進や地域の情報を紹介するパンフレットの作成と配布
事業費	1,515,337	2,104,869	1,200,000	4,820,206	1,200,000
市町支出金(ソフト事業分)	1,500,000	2,000,000	1,000,000	4,500,000	1,000,000
うち県交付金	750,000	1,000,000	500,000	2,250,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	15,337	104,869	200,000	320,206	200,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	地域の歴史的伝統の菊文化の復活と普及活動による金丸・大田原の活性化事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	2,000,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
販売売上	66,770	展示会時の菊販売
繰越金	10,902	
雑収入	27,197	預金利息、会員寄付
計	2,104,869	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	0	0	0	0	
旅費	0	0	0	0	
消耗品費	1,637,558	1,540,000	770,000	97,558	菊栽培材料費
食糧費	4,101	0	0	4,101	飲み物等
印刷製本費	0	0	0	0	
広告費	0	0	0	0	
備品購入費	0	0	0	0	
委託料	461,050	460,000	230,000	1,050	菊展示スペース整備
修繕費	2,160	0	0	2,160	車両修繕
計	2,104,869	2,000,000	1,000,000	104,869	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合



栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査書)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	雲巖寺薪能実施事業
事業主体の名称	やみぞあづまっぺ協議会
代表者の名称	鈴木 一利
事業主体の所在	〒324-0213 大田原市雲岩寺60
事業主体の概要	団体の目的:地区住民が明るく元気よく暮らせ、地域の本物を発見発掘し後世につなぐこと。 設立年月日:平成24年4月 構成員等:地域住民及び地域の活動に賛同していただける方
当該事業に係る地域の現状と課題	雲岩寺地域は大田原市の北東部に位置し、中心市街地より30km以上離れた地域であり、少子高齢化が顕著に進んでいる。「雲巖寺」という歴史のある由緒正しき寺院が建立されており、近年の歴史探究ブーム等により当寺院へ訪れる人はいるものの、寺院以外の目的はなく、地域の発展にはつなげていない。 また、第一次産業で生計を立てている人がほとんどであるが、今後ますますの少子高齢化により耕作放棄地が拡大しつつある。
事業目的	市内外からの来訪者を増やし、地域の農作物等の魅力を伝えていくことによって雲岩寺地域の価値を”地面”から見直していくとともに、農産物の生産、行事等の参加を通じて地域の高齢者の生きがいづくりや世代間の交流を図ることを目的とする。
事業概要	【平成30年度】 構成員が一丸となり地域の行事への参加取り組みを実施した。 ①薪能を開催した(10月27日(土)雲巖寺)。来場者250名 ②農産物の生産・販売等 ③農産物の生産による高齢者の生きがいづくり及び就労の確保 ④幅広い年齢層のコミュニケーション構築のための行事実施 ・お茶摘み体験会(5月17日(木)対象者:参加人数:15名) ・高校生による精進料理体験(10月27日(土)参加人数:10名) ・やみぞあづまっぺ協議会収穫祭(11月11日(日)来場者:300名) ⑤とちぎDCに合わせた地域の観光案内 【平成31年度以降】 前年度の反省点を踏まえ、事業内容の改善を行う。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代」に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり) 【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①薪能の開催 ②農産物の生産・販売 ③農作物生産による生きがい及び就労確保 ④幅広い年齢層コミュニケーション構築 ⑤とちぎDCに合わせた観光案内	①薪能の開催 ②農産物の生産・販売 ③農作物生産による生きがい及び就労確保 ④幅広い年齢層コミュニケーション構築	①薪能の開催 ②農産物の生産・販売 ③農作物生産による生きがい及び就労確保 ④幅広い年齢層コミュニケーション構築		
事業費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	1,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	850,000	765,000	680,000	2,295,000	0
うち県交付金	425,000	382,500	340,000	1,147,500	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	150,000	235,000	320,000	705,000	1,000,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakusuishin@city.ohawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	雲巖寺薪能実施事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
大田原市交付金	850,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
寄付金	70,000	薪能寄付金(4件×10,000円、1件×30,000円)
協賛金	80,000	薪能協賛金(1件×30,000円、1件×50,000円)
計	1,000,000	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	570,432	570,000	285,000	432	演奏謝礼、音楽奏者等
消耗品費	5,509	5,000	2,500	509	事務用品等
食糧費	4,140	0	0	4,140	来客用茶菓子
印刷製本費	39,144	39,000	19,500	144	チラシ(100部) ポスター(10部)
通信運搬費	5,902	5,000	2,500	902	案内状郵送料
手数料	62,160	62,000	31,000	160	舞台照明、音響設置手数料
保険料	1,680	1,000	500	680	賠償責任保険
委託料	102,157	101,000	50,500	1,157	警備業務等
使用料及び賃借料	67,800	67,000	33,500	800	舞台・椅子・送迎用バス
備品購入費	70,357	0	0	70,357	イベント用テント・テーブル等
繰越金	70,719	0	0	70,719	
計	1,000,000	850,000	425,000	150,000	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	大田原市
事業名	地域の歴史的文化資産の活用による湯津上地区の活性化事業
事業主体の名称	那須国古代ロマンプロジェクト
代表者の名称	佐藤 憲一
事業主体の所在	〒324-0041 大田原市本町1-3-3
事業主体の概要	団体の目的:湯津上地区における歴史的文化資産である「那須国造碑」「侍塚古墳群」の調査研究と観光地として整備することで歴史的文化資産を後世に遺し、地域の活性化を図ることを目的とする。 設立年月日:平成30年4月7日 構成員等:商工・観光団体の代表者、地域関係者、学識経験者、プロジェクトが認める者
当該事業に係る地域の現状と課題	湯津上地区には国宝に指定されており日本三古碑の一つである「那須国造碑」や国史跡に指定され日本一美しい古墳と呼ばれている下侍塚古墳を中心とした「侍塚古墳群」などの歴史的文化資産を有するが、現状、地域人口の減少により自主的な環境整備にまで手が回らず、せっかくの歴史的文化資産が朽ち果てていく一方である。
事業目的	地域住民の減少により朽ち果てつつある湯津上地区の歴史的文化資産を学術的な見地により検証することは、全国の歴史愛好家の興味を集めるものであり、この歴史的文化資産を有効に活用することで交流人口の増加を図り、地域の賑わいを取り戻すきっかけを作る。最終的に歴史公園としての整備を望んでいるが、その前段としてこの歴史的文化資産を活用し学術的な検証を行い文化講演を実施し交流人口の増加につなげたい。
事業概要	【平成30年度】 ①考古学的見地による湯津上地区の役割を検証 専門家による学術的な検証を実施した。 ②地政学上における湯津上地区の役割を検証 専門家による学術的な検証を実施した。 ③専門家による文化講演会の開催(3/22 那須スポーツパーク別館 参加者125名) 講師 大田原市なす風土記の丘湯津上資料館 上野修一館長 テーマ 古代那須国と水戸光園公～「日本考古学発祥の地」ゆづかみ～ 地域住民はもとより歴史愛好家に対し歴史的背景を浸透させることで交流人口拡大へ貢献するため、講演会を開催した。 ④地域の情報を紹介するパンフレット等の作成 湯津上地区歴史的文化資産の整備活動を推進し、地域の情報を紹介するパンフレット等を作成・配布した。 【平成31年度以降】 前年度の事業の反省を踏まえ、上記①～⑤を継続して実施する。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(文化・芸術・スポーツを活用したまちづくりの推進) 【KPI②】文化芸術イベントの来場者数 H26:4,790人→H32:5,000人【H28実績:4,835人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①考古学的見地による湯津上地区の役割を検証 ②地政学上における湯津上地区の役割を検証 ③専門家による文化講演会の開催 ④地域の情報を紹介するパンフレット等の作成 ⑤湯津上地区敵視的資産を活用した講演ツアー及びモニターツアーの開催	①考古学的見地による湯津上地区の役割を検証 ②地政学上における湯津上地区の役割を検証 ③専門家による文化講演会の開催 ④地域の情報を紹介するパンフレット等の作成 ⑤湯津上地区敵視的資産を活用した講演ツアー及びモニターツアーの開催	①考古学的見地による湯津上地区の役割を検証 ②地政学上における湯津上地区の役割を検証 ③専門家による文化講演会の開催 ④地域の情報を紹介するパンフレット等の作成 ⑤湯津上地区敵視的資産を活用した講演ツアー及びモニターツアーの開催		
事業費	450,004	1,200,000	1,300,000	2,950,004	450,000
市町支出金 (ソフト事業分)	400,000	900,000	800,000	2,100,000	0
うち県交付金	200,000	450,000	400,000	1,050,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	50,004	300,000	500,000	850,004	450,000

市町担当情報	
担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakuisu@city.ohatawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	地域の歴史的文化資産の活用による湯津上地区の活性化事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	400,000	大田原市わがまち未来創造事業補助金
協賛金	50,000	湯津上地区の賛同者からの寄付
販売売上	0	
雑収入	4	預金利息
計	450,004	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	70,000	70,000	35,000	0	講習会講師謝礼
消耗品費	7,397	0	0	7,397	講演会用消耗品
印刷製本費	277,884	238,000	119,000	39,884	講演会チラシ33,000部
通信運搬費	17,450	17,000	8,500	450	チラシ配送料
手数料	540	0	0	540	
広告費	66,528	66,000	33,000	528	新聞折込
使用料及び賃借料	9,300	9,000	4,500	300	
繰越金	905	0	0	905	
計	450,004	400,000	200,000	50,004	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市 町 名	大田原市
事 業 名	屋台出動事業
事業主体の名称	大田原市屋台まつり実行委員会
代表者の名称	委員長 小倉正敏
事業主体の所在	大田原市山の手1丁目1番1号
事業主体の概要	・団体の目的:大田原市の祭事、記念行事等に屋台(山車)を出動し、市民の連帯感と郷土愛を育み、伝統文化の継承を図る。 ・設立年月日:平成3年2月21日 ・構成員等:大田原市内に屋台を有する町内の祭典委員長等 64名
当該事業に係る地域の現状と課題	本市中心市街地は、江戸時代には宿場町として栄え、以降本市の中心地として発展してきたが、近年では人口や商業施設の減少など、中心市街地の空洞化が進んでいた。その対策として、平成20年に国の認定を受け、中心市街地活性化事業に取組み、現在は事業により整備した複合商業施設を中心に賑わいを取り戻しつつあるが、人口減少に歯止めがかかっている状況にある。 そのような中、民間事業者による宅地分譲により、新たな居住者が増えている地域もあり、今後、地域コミュニティの強化を図るうえで住民間で交流を促進し、連帯感を醸成していく必要がある。
事業目的	祭りを通して、市民の連帯感と郷土愛を育み、市伝統文化の継承を図るとともに、市外に大田原をPRすることにより産業の振興及び文化の発展を図る。
事業概要	【平成30年度】 ①大田原屋台まつりの実施 期日 平成30年4月21日(土)・22日(日) 会場 大田原市中心市街地 内容 中心市街地において、9町内の花鳥・唐獅子など精巧な技法で彫り込まれた華やかな屋台を引き回し、江戸時代から続く伝統行事の継承、祭りを通じて地域の連帯感を培った。(来場者数55,000人) ②大田原屋台まつり写真コンクールの実施 祭り期間中に撮影した屋台、屋台引き回し、参加者、ぶっつけ等の迫力ある写真を応募対象として写真コンクールを実施した。(応募点数:71点) 【KPI向上の取組】 江戸時代から続く大田原屋台まつりの伝統及び祭りの醍醐味である屋台同士のお囃子の競演「ぶっつけ」の迫力を市内外に広く情報発信するためのPRを強化した。 平成30年度においては、大田原市DC実行委員会と連携し、「本物の出会い 栃木」デスティネーションキャンペーン特別企画として、祭り両日ともに 棧敷席を設けるほか、本市の観光資源である「おおたわら七福神」の出開帳など新たな取り組みを行った。 【平成31年度】 平成30年度の成果を踏まえ、祭り来場者の増加及びおもてなしの向上を図り、更なる来場者の増加に取組んでいく。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(地域資源を活用した観光振興 魅力ある観光地づくり) 【KPI②】観光入込客数 H26:3,038,548人→H32:347万人【H28実績:3,257,179人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	大田原屋台まつり実施 写真コンクール開催	大田原屋台まつり実施 写真コンクール開催	大田原屋台まつり実施 写真コンクール開催		大田原屋台まつり実施 写真コンクール開催
事業費	8,261,148	7,800,000	7,800,000	23,861,148	7,800,000
市町支出金 (ソフト事業分)	4,200,000	4,200,000	4,200,000	12,600,000	4,200,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	4,061,148	3,600,000	3,600,000	11,261,148	3,600,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakuuishin@city.ohatawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	屋台出動事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	4,200,000	大田原市屋台出動事業費補助金
補助金	230,000	大田原商工会議所、大田原市観光協会、大田原商店連盟
負担金	720,000	出動負担金(9町×80,000円)
協賛金	120,000	写真コンクール協賛金(各団体計30,000円、各町計90,000円)
事業収入	2,023,000	チラシ広告料(830,000円)、カレンダー販売(525,000円)、慰労会負担金(27,000円)、文化財祝賀会(641,000円)
雑収入	259,315	預金利息(15円)、祝金(148,000円)、警備員追加負担金(111,300円)
繰越金	708,833	
計	8,261,148	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	2,849,092	1,500,000	0	1,349,092	屋台出動謝礼(傷害保険補助金)
旅費	0	0	0	0	
交際費	23,463	0	0	23,463	
消耗品費	125,019	100,000	0	25,019	イベント時消耗品、事務用品等
印刷製本費	2,186,460	1,520,000	760,000	666,460	ポスター、チラシ、カレンダー
食糧費	1,265,835	0	0	1,265,835	会場設営・会議時飲物等
通信運搬費	63,729	60,000	0	3,729	
広告費	0	0	0	0	
委託料	1,018,896	860,000	240,000	158,896	警備・花火等・音響等
使用料及び賃借料	208,560	160,000	0	48,560	会場トイレ・会場借上げ等
手数料	4,600	0	0	4,600	道路使用許可申請手数料
予備費	0	0	0	0	
繰越金	515,494	0	0	515,494	
計	8,261,148	4,200,000	1,000,000	4,061,148	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市 町 名	大田原市
事 業 名	芸術文化を活用した地域活性化事業
事業主体の名称	那須野が原国際芸術シンポジウム実行委員会
代表者の名称	那須野が原国際芸術シンポジウム実行委員長 津久井 富雄
事業主体の所在	大田原市湯津上5-1081
事業主体の概要	・団体の目的: 広く市民に芸術鑑賞の機会を提供するとともに、芸術の美しさ楽しさ、面白さに対する市民の関心を喚起し、ひいては地域文化の発展に寄与することを目的とする。 ・設立年月日: 平成9年5月13日 ・構成員等: 会長1名、副会長2名、委員6名、監事2名、オルガナイザー1名 (市、市議会、教育委員会、商工会、観光協会等)
当該事業に係る地域の現状と課題	両郷地区は、若い世代の地域外へ移動の増加や少子化の影響等により急速に過疎化が進んでいる。中学校の統合により生じた廃校施設に大田原市芸術文化研究所を設置し、芸術活動を地域のイベント等に絡めて地域の活性化を図り、新しい人の流れを作り始めているところである。 今後は地域外から人を呼び込む取り組みを引き続き実施していくだけでなく、地域内の住民が地域の良さを再確認し、地域の価値に気づき、その価値を共有する中で地域を愛しその良さを支える人材を育成していく取り組みが必要である。
事業目的	広く市民に芸術鑑賞の機会を提供し、芸術の美しさ、面白さに対する市民の関心を喚起することで地域文化の発展に寄与するとともに、芸術文化の発信地としての価値を高め、市内外から人を呼び込み、両郷地区の活性化を図る。
事業概要	【平成30年度】 ①公開制作の実施 期日 平成30年7月15日(日)～8月15日(水) 会場 大田原市芸術文化研究所 内容 国内外から彫刻家・画家等を招へいし、芸術文化研究所において芸術作品の公開制作を行った。(期間中來場者900名) ②展覧会の開催 期日 平成30年11月3日(土)～11月11日(日) 内容 ①の公開制作において制作された作品の展覧会を開催する。芸術文化研究所をメイン会場とし、作品を市内各地に展示(設置)して市内全体を展覧会場とする。(期間中來場者1,317名) ③市民対象イベントの実施 期日 平成30年8月5日(日) 会場 大田原市芸術文化研究所 内容 ①の期間内において、市民を対象にした平面・立体のワークショップを開催した。①の招へい作家等が講師となり、市民と芸術家との交流の場ともなった。(参加者23名) 【平成31年度以降】 平成30年度の成果を踏まえ、上記①～③を実施する。1年ごとに作家の招へい方式を変え、「芸術シンポジウム」「アーティストインレジデンス」を交互に実施する。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【目標①】「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」 (幸せ感向上の実現に向けた「知恵と愛にある共同互恵のまちづくり」 地域コミュニティ活動の活性化とふるさとづくりの推進) 【KPI①】地域づくりのリーダー養成数 新規→H32:200人【H28実績104人】 【目標②】「大田原市への新しい人の流れをつくる」(文化・芸術・スポーツを活用したまちづくりの推進) 【KPI②】文化芸術イベントの來場者数 H26:4,790人→H32:5,000人【H28実績:4,835人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①公開制作 ②展覧会 ③市民対象イベント	①公開制作 ②展覧会 ③市民対象イベント	①公開制作 ②展覧会 ③市民対象イベント		①公開制作 ②展覧会 ③市民対象イベント
事業費	10,908,948	10,000,000	10,000,000	30,908,948	10,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	7,000,000	8,500,000	8,500,000	24,000,000	8,500,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	3,908,948	1,500,000	1,500,000	6,908,948	1,500,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部政策推進課地域振興係
担当者名	小山田 良洋
電話	0287-23-8701
FAX	0287-23-8748
E-mail	seisakuuishin@city.ohawara.tochigi.jp

## 栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	大田原市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	芸術文化を活用した地域活性化事業	
対象年度	30	年度

## 1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市支出金	7,000,000	那須野が原国際芸術シンポジウム実行委員会運営費補助金
繰越金	3,895,915	前年度繰越金
雑収入	13,033	預金利息等
計	10,908,948	

## 2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	2,200,000	2,200,000	0	0	作家報酬等
旅費	587,601	587,601	0	0	作家等旅費
消耗品費	1,965,349	330,902	140,000	1,634,447	公開制作用消耗品
印刷製本費	813,460	813,460	400,000	0	図録・ポスター・DM等
食糧費	1,192,605	0	0	1,192,605	作家食事代等
通信運搬費	91,446	91,446	0	0	郵送料、インターネット接続料等
手数料	172,486	172,486	50,000	0	図録英訳手数料等
保険料	47,875	47,485	10,000	390	傷害保険料
使用料及び賃借料	1,479,756	1,479,756	400,000	0	公開制作用機材賃借料、温泉施設使用料
委託料	93,852	93,852	0	0	シャトルバス運行委託料
工事請負費	861,840	861,840	0	0	作品設置工事費
原材料費	321,172	321,172	0	0	御影石・木材等購入費
繰越金	1,081,506	0	0	1,081,506	
計	10,908,948	7,000,000	1,000,000	3,908,948	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合